

第二回

谷口裕和の會

平成十八年五月二十八日(日)

午後一時半開場／三時開演

飛騨高山

光記念館能舞台

入場券

四、〇〇〇円

(全席指定)

一、長唄 二人 椀 久

大河原一郎
松山功次郎

扇面

榎屋久兵衛
傾城松山
谷口裕和
浜崎麻衣

一、長唄 京鹿子娘道成寺

白拍子花子

谷口裕和

■ 演奏出演者

長唄 杵屋社中
鳴物 堅田社中

■ 後援

(社)高山市文化協会
高山市教育委員会

■ 協力

光 記念館
ホテルアソシア高山リゾート

谷口裕和の会実行委員会
流 創 会

■ 制作協力

著 風 会

■ 制作

オフィス ヴイスコンティ

前売券切符取扱所(四月六日発売)
チケットぴあ

0570(02)99999

(Pコード) 368・398)

オフィスヴィスコンティ

03(3836)5444

Web予約

<http://www.visconti.jp>



浜崎麻衣



谷口裕和

「二人槐久」(ににんわんきゅう)

月明かりに浮かぶ松原を、恋しい傾城松山の面影を慕いつつ一人彷徨う狂乱の槐久。やがて夢うつつのうちに、抱きしめていた形見の小袖は、松山の幻影となり、かつての華やかにかりし廓の日々、二人の色模様も蘇り、花の下、心浮き立つ二人の連舞いのうちに、いつしか松山の姿はかき消え、もとの小袖が残るばかり。一人残され、一層の淋しさ悲しみにうちひしがれる槐久に、月が影を落とし、松風の音が響き渡ります。

槐屋久兵衛は大坂に実在した豪商の若旦那で、新町の傾城松山と深く馴染み、豪遊を続けた果てに両親から勘当、ついには座敷牢に閉じ込められ狂死しました。この実話をもとに、歌舞伎の作品には槐久ものと呼ばれる作品がいくつも作られました。なかでも、この「二人槐久」は上演頻度も多く、聞かせどころ、見せ場も多く、さまざまな演出・工夫で舞台に上げられる長唄の名曲です。

今回は、槐久を紋付き袴での素踊りで、松山は衣裳付きで御覧に入れます。松山には、この春「第一回浜崎麻衣の會」を主催し、若手舞踊家として大きく飛躍を始めた浜崎麻衣丈を迎え、瑞々しい花をそなえた二人が描く、槐久の恋恋、美しい廓の情緒をお楽しみください。

「京鹿子娘道成寺」(きょうかのこむすめどうじょうじ)

歌舞伎舞踊の代名詞のような、多くの舞踊の名人が手がけてきたあらゆる踊りの要素の盛り込まれた大曲です。恋の執念から蛇身に変じた清姫、その吐く息は炎となって安珍が身を隠した釣り鐘もろとも燃き尽くしたという安珍清姫の伝説は、能の「道成寺」となり、さらに歌舞伎に採り入れられ多くの作品を生み出しました。曲の内容は、能にならって、新しく建立された釣り鐘の供養に、清姫の怨念は白拍子となって現れ、再び鐘に取り憑くというのですが、眼目はさまざまな曲調を踊り分ける娘の姿にあり、再び鐘に取り憑く手ぬぐいでのごとき「恋の手習」。鞆鼓を打ち鳴らし拍子をとりにながらの「山づくし」。再び娘の愛嬌を描く「ただ頼め」の手踊り。そして蛇の本性を垣間見せる振り鼓を持つての早間の緊張感のある踊りから鐘入り。最後は蛇体となって再び能がかりでの緊迫した終焉となり、見る者にも、演じる者にも息をつかせぬ変化に富んだ踊りの醍醐味を味わえる作品です。

本来の歌舞伎であれば、華やかな装置や衣裳など、目を楽しませるところはたくさんありますが、素踊りでの上演ですので、踊り手によってすべてを表現し、能舞台の空間に華やかな歌舞伎舞踊の世界を観る方に想像していただくような技量の問われる舞台です。

谷口裕和にとって「娘道成寺」は、初演の国立劇場に続き二度目となりますが、全曲を通しては今回が初となります。二十代最後の「娘道成寺」を通して、これまで日本舞踊に精進してきた成果を、地元高山での初リサイタルでご披露できる喜びと、気概にあふれた舞台となることでしょう。どうぞご期待ください。



<http://www.visconti.jp>

交通案内

電車) JR高山駅から
→タクシーで約10分
→濃尾バスで約30分

石車) 東海北陸道経由 中部縦貫道 高山西ICから
→R158で約10分
北陸自動車道 富山ICから
→R41で約2時間
長野自動車道 松本ICから
→R158で約2時間

無料大駐車場完備(バス30台・乗用車300台)

博物館美術館 総合型ミュージアム

光記念館 〒506-0051 岐阜県高山市中山町175
TEL:0577-34-6511 FAX:0577-34-6065
<http://www.hikarukinenkan.or.jp/>

光記念館

興 宇 川 邊 り え こ
写 真 木 越 由 美 子
解 説 官 本 浩 司

※当日は、光記念館が休館日でございますので開場時間前にお越しいただきましても
も入り頂くことはできませんので予めご了承下さいようお願い申し上げます。